

MOTOR SPORTS REPORT

Japanese Rally Championship(JRC)／全日本ラリー選手権

2015 開幕戦、ディフェンディングに挑む奴田原文雄がトップ争いを展開！

2014 JN5 クラスの王者、鎌田卓磨も最高峰の JN6 クラスに参戦

JN5 クラスでは注目のニューマシン、MINI JCW クロスオーバーをサポート！



2014 年々々々 ADVAN PIAA LANCER EVO X

■概要／Outline

国内外のレースシーンで活躍する PIAA はラリー競技においても名門として定着。WRC（世界ラリー選手権）で数多くのワークスチームをサポートするほか、国内最高峰シリーズの JRC（全日本ラリー選手権）においても 1982 年に横浜ゴムと「ADVAN-PIAA Rally Team」を結成して以来、アドバンのワークスドライバーとともに数々のタイトルを獲得してきたのだが、2015 年の JRC においても PIAA のサポートドライバーが活躍中だ。

まず、最高峰の JN6 クラスに目を向けると 2014 年のチャンピオンに輝いた「ADVAN-PIAA Rally Team」の奴田原文雄が三菱ランサーエボリューション X を武器に安定した走りを披露。開幕戦のターマックイベント「ツール・ド・九州」では僅差の 2 位に惜敗することとなったが、14 本中 4 本の SS でベストタイムをマークするなどディフェンディングに向けて抜群のスピードを披露している。



また、スバル BRZ を武器に 2014 年の JN5 クラスでチャンピオンに輝いた「Syms Racing with TEIN」の鎌田卓磨も 2015 年より VAB 型のスバル WRX で JN6 クラスにチャレンジ。ニューマシンでの参戦となっただけに開幕戦ではセッティングに苦戦するほか、SS6 で駆動系のトラブルに祟られてそのままリタイアに終わることとなったが、SS3 でサードベストをマークしただけにマシンの熟成が進めばトップ争いを左右するに違いない。



JN6 クラス SYMS TEIN DUNLOP WRX STI

一方、JN5 クラスに目を向けると話題のニューマシン、MINI JCW クロスオーバーを投入した「MINI CROSSOVER RALLY TEAM」の大橋逸夫も PIAA ユーザーのひとりで、開幕戦ではマシンの熟成不足に苦戦しながらも 11 位で完走。さらにトヨタ 86 を駆る「jms ADVAN エナペタル久興」の山口清司も PIAA ユーザーで開幕戦では JN5 クラスで 5 位入賞を果たした。



JN5 クラス リボ MINI JCW クロスオーバー

JN5 クラス jms ADVAN エナペタル久興 86

そのほか、JN5 クラスに木下聡のトヨタ 86、JN4 クラスに石川昌平のスバル BRZ と JRC に 2 台の FR スポーツを投入する「ARTA オートボックス・ラリーチーム」も PIAA のサポートチームで開幕戦のツール・ド・九州でも躍進。JN5 クラスの木下は SS8 でコースアウトを喫し、そのままリタイアに終わるものの、チームメイトの石川が JN4 クラスで開幕ウインを獲得した。



JN5 クラス ARTA オートックス 86



JN4 クラス ARTA オートックス BRZ

このように 2015 年の JRC でも開幕戦から PIAA ユーザーが躍進しており、今後も各クラスでトップ争いを展開するに違いない。

■レポート/Report

2015 年の全日本ラリー選手権が 4 月 11 日～12 日、佐賀県唐津市の林道を舞台にしたターマックイベント「ツール・ド・九州」で開幕。同イベントには全国各地から計 55 台のマシンが集結したのだが、そのなかで注目を集めていたのが、PIAA がサポートする ADVAN-PIAA Rally Team の奴田原文雄だった。奴田原は 2014 年を含めてこれまでに 9 度に渡って最高峰クラスでチャンピオンに輝いている JRC のトップドライバーで、2015 年の開幕イベントのツール・ド・九州でも最高峰の JN6 クラスでデイ 1 から素晴らしいパフォーマンスを披露していた。

PIAA のランプシステムおよびシリコンゴムワイパーを装着した三菱ランサーエボリューション X で SS2、SS5、SS7 と 3 本の SS ウインを獲得した奴田原は、トップからわずか 0.5 秒差の 2 番手でデイ 1 をフィニッシュ。デイ 2 での SS ウインは SS12 の 1 本だけに留まり、開幕戦は 2 位に惜敗することとなったが、そのパフォーマンスに陰りはない。ドライバー、マシン、チームともに弱点がなく、第 2 戦以降は奴田原が得意とするイベントが続くだけに、2015 年の JRC でも奴田原がトップ争いはもちろん、タイトル争いの主導権を握ることだろう。

一方、奴田原とともに 2015 年の JRC で注目を集めているのが、Syms Racing with TEIN より JN6 クラスに参戦している鎌田卓磨だ。鎌田は APRC (アジアパシフィックラリー選手権) や WRC など 1990 年代後半から海外ラリーで活躍してきたドライバーで、2000 年からは JRC に参戦。2005 年～2008 年にかけて再び PWRC (プロダクションカー世界ラリー選手権) や APRC など海外ラリーで活躍しており、2013 年からはスバル BRZ で JRC に復帰、2014 年には JN5 クラスでチャンピオンを獲得している。その鎌田が 2015 年より VAB 型の新型スバル WRX で JN6 クラスにエントリー。開幕戦のツール・ド・九州で早くもその才能を見せつけた。



鎌田の新型 WRX はデビュー戦となっただけにマシンの熟成不足は否めないものの、それでも鎌田は SS3 で 3 番手タイムをマークするなど好感触を掴んでいた。それだけにセカンドループ、サードループでのペースアップが期待されていたのだが、SS6 で予想外のハプニングが鎌田を襲う。駆動系のトラブルに祟られた鎌田は同ステージでストップしてしまい、デイ 1 を走りきることなくリタイアすることとなったのである。まさに鎌田にとっては悔しいリザルトとなったが、本人も確かな手応えを掴んでいるだけに、第 4 戦「ラリー洞爺」、第 5 戦「がんばろう！福島ラリー」、そしてナイトステージを設定し、明るいらンプが求められる第 7 戦の「ラリー北海道」など得意とするグラベルイベントでは、PIAA のライティングシステムを持つ鎌田が台風の目となるに違いない。

このように最高峰クラスの JN6 クラスでは畑田原、鎌田の躍進が期待されているが、JN5 クラスにも数多くの PIAA ユーザーがエントリー。そのなかで注目したいのが、話題のニューマシン、MINI JCW クロスオーバーを投入する MINI CROSSOVER RALLY TEAM の大橋逸夫だと言えるだろう。スーパーGT で GT300 クラスのチーム監督を務めるほか、D1 グランプリでタイヤメーカーチームのゼネラルマネージャーを務めるなど主にマネジメント側で活躍してきた大橋はラリードライバーとしても JRC で活動を展開。2014 年にはラリー北海道を含めて数戦にスポット参戦している。

MINI JCW クロスオーバーのデビュー戦となったツール・ド・九州はマシンの熟成不足が否めず、セッティングを変えながらのドライビングを強いられたが、大橋は安定した走りを披露し、クラス 11 位で完走。ライバル車両と比べると車両重量が重い、希少な 4WD マシンとなっているだけにグラベル戦では抜群の安定性を披露するに違いない。なかでも、ナイトセッションを有するラリー北海道ではランプ性能が左右するだけに PIAA のランプシステムを持つ大橋の MINI JCW クロスオーバーが上位争いを展開することだろう。



そのほか、トヨタ・レビンからトヨタ 86 にマシンをスイッチした「jms ADVAN エナパタル久興」の山口清司も 2015 年からの PIAA ユーザーのひとりとして、開幕戦のツール・ド・九州ではクラス 5 位に入賞。

同じく JN5 クラス ホンダ・インテグラ type-R で参戦の「Team Rally Tech Works」の折登文洋も東日本戦からの PIAA ユーザーで、全日本戦への参戦は 2 年目となる。



また長年に渡って JRC で活躍している ARTA オートボックス・ラリーチームも PIAA のサポートチームで、2015 年は JN5 クラスにトヨタ 86 を駆る木下聡、JN4 クラスにスバル BRZ を駆る石川昌平といったように2台の FR スポーツを投入している。開幕戦のツール・ド・九州では JN5 クラスの木下が SS8 のコースアウトで無念のリタイアに終わるものの、JN4 クラスの石川が猛威を発揮。8 本中5本のステージでベストタイムをマークし、2番手に約 4.9 秒の差をつけてデイ 1 をトップでフィニッシュするほか、デイ 2 でも 6 本中 5 本の SS ウインを獲得し、開幕ウインを達成しただけに JN4 クラスではスバル BRZ を駆る若き逸材、石川がタイトル争いを左右するに違いない。



このようにラリー競技の名門サプライヤーとしても定着する PIAA は 2015 年の JRC でも活躍。そのライティングシステムのパフォーマンスを証明するように、各クラスで PIAA ユーザーが特にナイトセッションがあるイベントではトップ争いを展開することだろう

■ユーザーの声/User's Voice

奴田原文雄/Fumio Nutahara

ADVAN-PIAA Rally Team/ドライバー

マシン：三菱ランサーエボリューションX

「中央の 2 灯で前、左右の 2 灯でサイドを照らすようにしています。ラリー競技では前方だけでなく、サイドを含めて全体的に明るくないと使いにくいんですけど、PIAA のシステムは明るいだけでなく、配光もいいですからね。それに色もナチュラルな感じなので目が疲れにくい。IRC で他社のランプを使ったことがあるんですけど、やっぱり PIAA のシステムがレギュレーションのなかでは最高のシステムだと思いますよ。JRC ではナイトステージが少ないけど、PIAA のランプシステムならラリー北海道のナイトステージでも安心して走れます」

